一般質問



水野 洋一 議員

質問① 昆布増産の施策等について

問 約30年前(平成元年)と近年を比較して昆布従事者数、年間生産量、年間生産額について。

答 平成元年の昆布従事者は185人、年間生産量は986t、年間生産額は10億8千7百36万6千円。平成30年の昆布業従事者は123人、年間生産量は330t、年間生産額は5億9百24万3千円。従事者は約34%の減、生産量は約67%の減、生産額は約53%の減といずれも減少している状況である。

問 昆布生産に伴う町内の経済的波及効果について。

答 過去においても試算は行っていない。

問 昆布増産に係わる町や関係機関の事業について。

答 今年度予定をしている事業としては、水産基盤整備事業による冬島支所地区の雑海藻駆除事業。規模については3万㎡、国の補助が50%、町の補助が13%となっている。

次に、水産多面的機能発揮対策事業による雑海藻駆除事業。規模については、様似支所地区1万8千㎡、冬島支所地区1万2千㎡、国の補助50%、道の補助25%、町の補助25%となっており、事業主体の負担はない。

次に、沿岸漁場保全事業による冬島支所地区の雑海藻駆除事業及び投石事業。規模については、雑海藻駆除事業は2千9百㎡、投石事業は70㎥、町の単独補助が三分の一となっている。



質問② 町職員の「働き方改革」等について

問 現在と約10年前と比較して有給休暇消化率について。

答 有給休暇消化率については、平成20年度の取得率22・9%に対し、平成30年度は18%となっているが、その年によって取得率にはばらつきがある。

問 現在の臨時職員数と勤務年数、有給休暇について。

答 臨時職員数は53名で、勤務年数については、一般事務臨時職員については、基本2年間としている。有給休暇については、1年目は、所定労働時間により1日から10日間の有給休暇を付与している。

問 ここ約10年間の長期休職者数について。

答 長期休職者数は5名となっており、最短で2か月間、最長で3年間となっている。

問 職員の「働き方」ではなく、管理職の「働かせ方」の研修機会の有無、各改革案を協議する機会や機関の有無について。

答 北海道市町村職員研修センターが行う各種研修会がある。

また、改革案自体をもって職員と協議する場はない。

質問③ 林道様似パンケ線の現況について

問 現在の林道様似パンケ線の現況について。

答 延長約20mの路肩崩壊、延長約30mの路盤流失、延長約10mの横断管閉塞による土砂の流入、延長約80mの道路崩壊を確認しているが、現在復旧していないので、道路崩壊場所より奥の約8㎞については確認できない状況である。

問 今年度、この林道の現況確認作業等の予定について。

答 林道パンケ線の修繕は、確認できている箇所は8月末までに終了し、奥の未確認部分については車両が通行可能となり次第、状況の確認をする予定です。



一般質問



鈴木　隆　議員

質問① 鵜苫地区墓地の道路整備について

問 この道路は、勾配が急であり、道路整備も不十分であるため、大きな事故が起きる危険性がある。至急に道路整備が必要であると考えるが、この道路の整備計画はあるか。

答 平成24年から平成27年にかけて鵜苫自治会より「迂回路の整備と駐車場の設置」についての要望があったが、土地所有者の承諾が得られず、また、得られたとしても迂回路及び駐車場を確保するスペースがないことから、今後においても現状での利用をお願いしているところである。

問 余りに道路が急なため、車でも人でも登るのが大変である。また、コンクリート舗装はしているが、20㎝程度の玉石をまだらに敷いているため、車での走行は厳しく、雨の日の走行は滑る危険もあると思う。実際に走行途中で滑り落ちてくるという事故も発生しており、一歩間違えば重大事故に繋がる恐れもあることから、道路の改良、迂回路の整備について改めて検討していただきたいと思うが、いかがなものか。

答 玉石の関係、平坦性を求めることについては、玉石の上からオーバーレイ、アスファルト舗装を施工することは可能かと思う。このような方法で全て改善できるかどうか、検討させていただきたい。



質問② アポイ山荘への入浴バス代の無料化と運行時間の延長について

問 今年の運行予定日、日時、料金等を教えてください。

答 今年度における運行は、通年週2日、月曜日・木曜日を基準に4月～10月までは毎月6日程度で44日、11月～3月までは毎月8日程度で40日を予定している。往路は午前9時36分にJRバス様似営業所を出発し、10時30分または11時にアポイ山荘に到着、往路は15時にアポイ山荘を出発。料金は小学生以上1日300円となっている。

問 浦河町のアエルでは、毎日入浴のための無料バスを運行しているとのことだが、アポイ山荘でも同じようにできないか。

答 バスの運行は、老人クラブ連合会の事業として取り組んでおり、その一部を町が支援しているものである。無料化については、順序立てて進めていかないと困難な話であり、慎重を期すべきだと思っている。

質問③ 学校給食の早期実施について

問 町民が要望する学校給食の実施計画はあるのか、ないのか。

答 浦河町・えりも町との話の中では、広域事業として取り組むとした場合、それぞれの町にメリットがあるものと思っている。広域的な事業実施の視点で考えると相手の町との兼ね合いもあるため、現時点では時期や見通しまでは分からないが、タイミングを合わせながら協議を進めていければと考えている。



質問④ 町民の日常の交通手段について

問 道内に179の自治体がある中で補食給食のみ実施が3自治体、ミルク給食のみの自治体が様似町を入れて6自治体となっていることは寂しい気がしますが、いかがお考えですか。

答 学校給食については、全道的にもいろいろな形でやっており、やっていない所が珍しい状況であり、ご指摘のとおりだと思う。

問 コミュニティバスを運行して、車を利用できない町民の買い物や通院時の利便性を確保する計画はあるか。

答 現状では、ＪＲバス等の路線バスが走っている所では考えていない。

ただし、今後高齢化が進展する中で、ニーズや状況に応じ、地域の実態に合わせた制度や交通システムの構築について、検討していかなければならないと考えている。